

あすなる応援団と掛川市、4事業者



協定を結んだ関係者一掛川市役所

事業者は勝又商店と道の駅掛川、カインズホーム掛川店、トリン

資源化回収で協定

売払金 活用 ICT機器寄付へ

ごみの減量などを推進している掛川市の市民団体「あすなる応援団」と市内の四つの事業者、市が18日、「資源化回収に関する協定」を締結した。古紙や缶、ペットボトルの売払金を活用し、電子黒板など教育情報化を支援するICT機器を市内の小中学校へ贈る運動を展開していく。

「あすなる応援団」は、インターネット上「PR」することにも、ル・ジャパン。同応援団に協力して専用のボックスを設置し、資源物を回収する。同応援団は集まった資源物を売ってICT機器を購入し、市に寄付する。市はこれらを取り組みを市民へ広

「あすなる応援団」の松浦昌巳代表は「市全体の資源化が子どもたちのために役立つ仕組みをつくりたい」と意気込んだ。

希望の丘に間伐材ベンチ



関係者が出席したベンチの贈呈式
＝掛川市の希望の丘

「木のぬくもり多くの人に」

掛川時ノ寿の森クラブ18基寄贈

掛川市北部の倉真大沢地区で森林の再生を進めるNPO法人・時ノ寿の森クラブ(松浦成夫理事長)は26日、同市杉谷南の旧市立病院跡地に市が整備した「希望の丘」に木製ベンチ18基を寄贈した。関係者が出席して同所で贈呈式を開いた。

活動の中で出たヒノキの間伐材を使用。環境保全に取り組む同市のNPO法人・WAKUWAKU西郷と共同で製作した。長さ120センチ、幅は45センチ。希望の丘は医療や福祉、介護、教育の総合ゾーンとして七つの施設で構成し、4月1日に全面開業する。ベンチは各施設の屋外や遊歩道に配置する予定。各施設の事業者と地域住民で組織する希望の丘運営委員会が日常の管理に当たる。松浦理事長は「『山からまちへの木使いプロジェクト』を進める中、このような場で活用してもらえたら光栄に思う。多くの人が木のぬくもりを感じてほしい」と呼び掛けた。松井三郎市長は感謝の言葉を述べ、「全市民の交流拠点になることを期待している」とあいさつした。贈呈式に先立ち、構成施設の一つで、幼児から高齢者までの全世代を対象に在宅生活を総合的に支援する拠点「中部ふくしあ」の開所式も行われた。